

平成20年度 第1回 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議 会議録

日 時	平成21年3月31日(火)	15:00 ~ 17:00
会 場	北館2階 第3会議室	
出席者	会 長 今川 晃 委 員 稲澤 克祐 勝見 健史 小浦 久子 菅 磨志保 松井 順子 市側出席者 山中 健(市長) 岡本 威(副市長) 事務局 西本 賢史(行政経営担当部長) 米原 登己子(行政経営担当課長) 上田 剛(行政経営課課長補佐) 山内 健(行政経営課職員) 長谷川 俊輔(行政経営課派遣職員)	
欠席者	安田 丑作 委員	
会議の公表	公 開	非 公 開 部分公開
傍聴者数	0 人	

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員の委嘱
- (3) 市長あいさつ
- (4) 委員紹介
- (5) 会長,副会長選出
- (6) 会長,副会長あいさつ
- (7) 議題
 会議の公開,会議録の公表について
 第4次芦屋市総合計画の策定方針について
 総合計画策定に関する意見交換
- (8) その他
- (9) 閉会

2 配布資料

- 資料1 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議委員名簿
- 資料2 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議設置要綱
- 資料3 第4次芦屋市総合計画策定方針
- 資料4 第4次芦屋市総合計画の構成イメージ図(たたき台)

3 審議経過

(1) 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議委員委嘱式ほか 委嘱状交付及び市長あいさつ

【開会】

【委員の委嘱】

(山中市長) 平成13年度から第3次芦屋市総合計画がスタートしており、10年の計画期間の9年目に入ろうとしている。現在、第3次芦屋市総合計画の総括・検証作業を進めているところだが、平成23年度からスタートする新たな第4次芦屋市総合計画の素案作りを行う市民会議の委員募集を3月16日から始めるなど新しい総合計画の策定に向けた取組をスタートしたところである。アドバイザー委員をお願いした先生方においては、それぞれ専門の分野等でお力添えを賜りたい。忌憚のない意見をいただいて、ぜひこの新しい総合計画のスタートを切れる、そうしたご意見を賜りたい。よろしく申し上げます。

会長、副会長選出

【推薦により会長は今川委員、会長の指名により副会長は安田委員を選出。】

(今川会長) 芦屋市において、私は、市民参画・協働推進に関わっており、地縁団体もNPOも非常に熱心に活動しているし、市民活動センターも活気づいてきており、地縁団体とNPOとが手を組んで一丸となりまちづくりに取り組んでいるという点で見本的なモデルになるかもしれないと期待している。また、総合計画においても職員参加、公募で職員を集め研究チームを作るなど、やる気のある職員をどんどん引き出すまちだと思っている。今後この総合計画が形になるのを楽しみにしている。

(2) 議題 : 会議の公開、議事録の公表について

(事務局・米原) この総合計画アドバイザー会議は、市附属機関に準ずる機関であるため本市の情報公開条例により公開することが原則となっている。傍聴を希望する者がいたら傍聴を認め、会議録については、発言者名を含め、インターネット上で公開することについてご理解いただきたい。

【全委員了承、傍聴希望者なし】

(3) 議題 : 第4次芦屋市総合計画の策定方針について

【事務局より資料3策定方針の説明及び資料4構成イメージ図の説明】

(4) 議題 : 総合計画策定に関する意見交換

(今川会長) 提案ですが、事務局の説明について質疑もあるが、このまま質疑と意見交換を同時に進めたいと思うがいかがか。

(事務局・米原) 異論ありません。

(今川会長) では、委員の意見をお伺いします。

(小浦委員) 若い職員を参加させていくとのことだが、策定方針5ページの図では説明がなかった。どこへ参加するのか。また、課長職及び部長職はどこへ参加するのか。

(事務局・米原) 若手職員の参画は、図右上の「基本計画素案作成職員会議」で考えている。4ページで言うと「6.策定体制」の中にある「(4)基本計画素案作成職員会議」が課長補佐級以下の職員となり、「(5)策定委員会専門部会」が課長

- 職，「(6)策定委員会」が部長職以上と考えている。
- (今川会長)公募職員は何名程度を想定しているのか。
- (事務局・米原)必ず入ってもらいたい職員も含めて40人程度を希望している。
- (稲澤委員)「素案」と「原案」についてだが，素案はどの程度まで詰めていくのか，またそれに対し職員はどの程度まで原案という形にするのか。素案作成・原案作成という二段階でどう進められていくのか少しイメージが掴めない。
- (事務局・米原)まだ具体的には考えていないが，課長級の会議，若手職員の会議，市民会議が並行で動くイメージも持っている。また，素案作りに関わる市民会議と若手職員の会議は，どこかで一緒になってやっていく必要があると考えている。素案は，かなり突っ込んだところまで作っていきたいと考えている。
- (今川会長)市民会議や職員会議で作られた素案を公にする前に策定委員会で公認し，パブリックコメントへは，市の責任で出す。パブリックコメント後は，寄せられた意見を基に行政で原案を作り審議会に諮問する，つまり絶えず市民の意見は聞くけれど責任は行政・市長が持つという仕組みだと理解してよいか。
- (事務局・米原)その通り。策定方針5ページの図は，安田委員にアドバイスをいただき作成した。何か意見があれば寄せていただきたい。
- (稲澤委員)総合計画審議会の後ではなく，議論がある程度収束したところでパブリックコメントを実施し，その結果を受けてから審議会を終えるという案もある。
- (松井委員)第3次総合計画の総括・検証と第4次総合計画へのつながりについて解説して欲しい。
- (事務局・米原)現在は，施策単位での総括を行っており，課題等を第4次総合計画へどのように盛り込んでいくのかは，現状分析の中で考えていく必要があると考えている。
- (今川会長)検証を行う自治体は少ない。明記されているし良い事だと思う。
- (松井委員)非常に大事なことだと思うし，頑張ってもらいたい。
- (菅委員)第3次総合計画の状況調査とは市民を対象にしたものか。
- (事務局・米原)行政内部での調査である。
- (菅委員)アドバイザー会議について，具体的にどのようなプロセスで，どういう形で関わるのか。
- (事務局・米原)策定業務にはコンサルタントの支援を受けるのだが，特に市民会議の最初の3回程度は全体会として，学習会的なものをやってみては，と提案をもらっている。委員の方々には市民会議には，時間が合うようであれば，議論の方向付けやアドバイスをいただきたい。職員会議への助言は，事務局経由で意見をいただくなどを考えている。出来るだけ部会には参加していただきたいが一律とするのは難しいと考える。
- (勝見委員)総合計画がスローガンで終わらないようにするためには，現場の方々の声を拾っていく必要がある。市民会議に所管職員が参画・同席する可能性はあるのか。
- (事務局・米原)部会からの要請によると考える。
- (勝見委員)総合計画審議会や基本計画素案作成職員会議などに現場の方に入ってもらうべきではないか。
- (小浦委員)総合計画で一番の問題は，現在の枠組みでの議論になりがちということだが，勝見委員の提案は，芦屋型のプログラムを既存の枠組みの中で再構成できるのか，ということだと思う。従来の基本構想を作って基本計画・実施計画に落と

すという形ではなく、もっと現場のプログラム作りと並行して基本構想の部分を考えていくということではないか。

(勝見委員) 実施計画の段階で初めて現場へ出てくるのではなく、どこかの段階で現場の声が反映されたものとして計画が下りてくるというのはいかがか。

(事務局・米原) 実際の実施計画の作られ方としては、現場からの事業要求的なもので作られ、事業ごとにやる、やらない、を決め、毎年の予算を作成している。

(勝見委員) 現在のやり方にどうこうと言うつもりはないが、少なくとも長になる人が熟知し、納得した上で具体的な施策や行動計画を下ろしていくことが大事だと思う。

(小浦委員) 現場の感覚を私たちが捉え、構想や政策に入れておけば、新しい重点プログラムやアクションプログラムが位置付けやすくなるので、今の状況を捉える工夫をすれば良いのではないか。

(今川会長) 当事者の声というのは非常に重要である。現場の声、状況の分析をどのように会議に反映させていくか。多様なアンケート調査の結果や分析が必要になれば、話しを聞く機会を設けていくことかと思う。

(事務局・米原) 検討します。

(今川会長) この会議も当事者の声をどのように反映するかということを考えてみてはどうか。現場の状況や当事者の声などを市民会議等へ反映していくことは物理的な限界があるが、可能な限りやっていく必要があると考える。

(稲澤委員) 実施計画はアドバイザー会議の所掌ではないが、関連させていくことも必要になってくる。基本計画は施策で表現されるが、施策は事務事業という実施計画事業を手段として持つのだから、その政策体系をいつ、どこで、誰が、どのように検討するのかを考えていかなければならない。今そのようなことを意識しないまま最終的に計画を作り上げてしまっただけではいかなものかと思う。ただ、それが市民も入ってもらうような場で検討することなのか、という話はある。

関連の質問だが、資料3の3ページ「(2) 市民参画による策定」の方針・考え方には「10年後に目指すまちの姿、まちづくり指標とその目標値を含めた素案を市民参画で作成する」とあるが、「指標」と「目標値」は政策的な話である。それを市民参画で行う際にはどういう設計がされるのか。方針はそれで良いのだが、具体的にどの場で審議に入っていただくのか。

「(1) 進行管理や検証を見据えた計画の策定」を達成するのなら進行管理が出来る指標を作らないといけない。進行管理をするのであれば目標からずれた時どうするか具体案を持っていなければならないということである。係わりを持つ人がどこに登場するのかを意識されていないと実効性のあるものが出来ないかもしい。それと、市民参画による指標の作成について最初から市民に任せるとするのは、行政として受け身すぎるのではないか。アドバイザー会議を通じて考えるのが良いのではないか。

(小浦委員) いろんな施策の何をどう組み立てるかを考えるにもかなり政策的な判断がいる。どこまでを前提としてどこから先を議論の対象とするのか、聞かせて欲しい。

(事務局・米原) 大きな政策的な判断としてどこまでという具体的なものは事務局としては持っていない。こちらの理解が現時点で少し足りないのかもしれない。

(小浦委員) 例えば人口の話だと、住宅都市としてどの辺りの質、こういったところを目指すのかということである。また、こうした施策では人口の考え方というのが

ある。芦屋の場合は条例でかなり厳しいことをやってきている。つまり、結果的に、長期的に見ればやみくもに人口を増やしていない。そういうのが一つの政策だと思う。もちろん、市民が議論することも重要だが、やはり政策的な方向性みたいなことは語るべき。誰がどこでどう決めるかというのは非常に難しい問題だが、出していく必要があると思う。それと、次世代のことを今の人たちが決めることに対する責任をどうするのか、という問題への回答として市民参画があるのではないか、という気はする。

(事務局・米原) 今日のご意見をもとに考えさせていただく。3ページ(4)の中で目標人口というものを示しているのは、施策を検討していくために推計と目標の両方が必要だろうということの方針の中へ含めたものである。今年中の早い時期に市長・副市長を含めた場で検討していきたい。

(今川会長) 芦屋らしさをどう維持していくのかというところで市の方針も必要なのではないか。議論のたびに示してもらいたい。

(山中市長) 第3次総合計画の策定時、平成12年5月に行った将来人口推計では、計画の目標年となる平成22年の人口を8万7千人と予測したが、はるかに超えて既に9万4千人近くになっている。兵庫県では一、二の人口増加率で伸びてきている。17年に行った将来人口推計では平成32年の10万4千人をピークにその後減少する予測だが、この規模の面積で考えると9万人から10万人ぐらいがちょうど運営しやすいのかと思う。増えすぎるのが必ずしも良いことではないと思うし、現在程度が良いのかとも思っている。

(勝見委員) 2ページにある「目指すまちの姿の明確化」の中で目標値の設定という項目があるが、これは第3次総合計画には無かったのか。

(事務局・米原) はい。

(勝見委員) 前もって到達点を示しておくのは非常に有効で、重要な評価、進捗状況を振り返っていくヒントだと思うが、数値で挙げると形骸化してしまう面もある。市民への返し方というか、あるいは現場の進捗状況を改善する方法ということ抜きにして数値だけ掲げると、現場のモチベーションが下がっていく。それをフォローするような考えは持っているのか。

(事務局・米原) 目標値の項目をどう設定するのかによると思う。工夫が必要だとは思っている。

(勝見委員) 資料4の基本構想の一番下の「目標値・展望」欄には、数値を挙げたものしか入らないのか。

(事務局・米原) 出来るだけ数値化できるもの、あるいは内容がわかるものにしたいと思っている。

(今川会長) これは多くの自治体の悩みであって、結果というのは簡単に見せられるが、効果を測定する考え方は、ぜひこの総合計画で芦屋方式を編み出して欲しいと期待している。

(稲澤委員) 総合計画で表現される施策というのは事業の上位に位置するものだから、行政の結果を示す指標を超えたところに置くべき指標である。それを数値で表現するのがよいのか、そうではないのかという議論が必要になってくるし、むしろ質的な観点の評価が必要になってくるかもしれない。量的評価であれば市民とどの程度の関わりがあるかということも含めて設定する。

それから、目標値は10年以上前のデータからの推計を基にして設定するというのを肝に銘じておかないと、達成ありきのもの、達成しやすい結果指標の設定に陥る。目標値はもちろん進捗管理して達成を目指すわけだが、

様々な要因によって変動する指標の中から設定をしているわけだから、市としてどの程度までの説明責任を果たし市民に訴えていくのか、という所も計画で位置づけを考えておく時期に来ているのではないだろうか。

第3次総合計画は目標値の設定をしなかったという自治体が多い時代に作られているが、今の時代は目標値を設定する自治体が多くなっている。ところがその目標値が、勝見委員ご指摘のように達成ありきのものへと逆転を始めている。そういうところを直しながら、しかし目標があることによって計画の進捗がわかりやすくなり、わかりやすくなるからこそ市民は、例えばリサイクルなどの数字が出たときに、行政がやることよりも市民がやることとして、芦屋に住んでいてこんなにリサイクル率が低いのであれば頑張らなきゃいかんと、リサイクル率が低いとごみが増えて芦屋のごみ処理場が許容量を越してしまえばごみが溢れてしまうじゃないかと、そういうことを理解できるようなものをうまく設定できるよう、両面で見るときのなかのと思う。

あと、今後どういう機能をこのアドバイザー会議は担っていくのかご教示願いたい。

(事務局・米原) 市民会議などが実際に動き出したときには、参加いただける委員には参加いただきつつ、会議の中での進め方や議論のあり方、まとめ方について、こうやったらいいのではないかということを持ち帰りお話いただくというのもあるだろうし、あるいは第3次総合計画の総括・検証や、昨年実施した市民アンケートなどの作業の結果に対して意見をいただく場にもできたらと考えている。あるいは逆に、そういう中途半端な立場よりもこうしたら良いという意見があればいただきたい。

(今川会長) 個人的には走りながらやるしかないと思っている。

(小浦委員) この会議は、全体を見るなど調整をするような感じで捉えている。

芦屋の総合計画は、きちんとやりたいことを書いておりイメージがはっきりしていて優秀だと思う。しかし、第3次総合計画で他市と同じような普通のものになってしまった。できるならもう一度芦屋らしいものを作りたい。小さい街だからこそできる様々な施策の組み合わせなどが表現できれば面白いのではないか。

(松井委員) それぞれの部会の連携はどのように考えているのか。

(事務局・米原) 出来れば広い部屋で6つの部会が一緒にやりながら、今日はここここが一緒にやろうという形になっても良いかと思うが、日程上の都合が合うかどうかの問題がある。

(松井委員) 市民委員の方々に連携について何か工夫していただくのも一つのアイデアかと思う。また、アドバイザー同士でやり取りさせていただくことも可能かと思う。

(事務局・米原) 情報共有のために委員の方々のメールアドレスを共有させていただくとお互いに情報交換も出来るかと思う。

(今川会長) メーリングリストか何かを作れば良いと思う。

(小浦委員) 施策間連携に関しては、市民同士は生活実感的に出来ると思う。職員がそういった連携の中で議論できるかが問題かと思う。

(事務局・米原) 不規則な部会の編成にしたのは、そういう連携を取っていく場所にしていきたいという意図なのだが、どうしても職員は縦割りになってしまうので

うすべきか悩んでいる。

(今川会長) 市民会議がやはり重要で、枠にとられない議論というものを整理するときが重要である。過去に経験した自治体は大体課ごとにプランを作ってしまう。それを束ねるため縦割りの総合計画になってしまうが、市民の声は、縦割りと関係の無い構造である。だから市民の声をきちんと整理して、その後行政との調整をどう図るかが重要である。事務局の言うとおり、ある程度名称を付けないと会議が進まないため付けるが、別に領域を越えても構わないという会議からスタートすることに賛成である。

(事務局・米原) 今回のコンサルタントの方もあちこちで市民会議的なことを経験されているので期待している。

(今川会長) 今日は現場の声をきちんと吸い上げなければならないことや、評価のあり方などいろいろな指摘をいただいたが、その他、総合計画をスタートする段階において何か注意しなくてはならない点があればお伺いしたい。

あと、メールで意見交換を出来る場を、委員の方々の賛同を得られるのであればお願いしたい。

(岡本副市長) 会議の前に職員に対して第4次総合計画のものの考え方やプロセスなどについて一度講演をしていただけないだろうか。

(今川会長) 職員も堂々と発言してもらえればありがたい。生活感覚とつないだものを意識しながら再構築していただくとありがたい。

事務局の方から質問などあるか。

(事務局・米原) 分野ごとの計画と総合計画との関わりが非常に難しい。安田委員からは、「総合計画は大きいまちの方向性を決めて、後の基本計画、あるいは具体的なものはそれぞれの分野ごとの計画に任せるような形はどうか」と意見をいただいている。どう整理すればいいのか悩んでいるのでご教示いただきたい。

(今川会長) どこでもものすごく悩ましいところである。関連する計画の概要版でもあればそれも意識しながら、多少議論していく必要があるのかと思う。また、個別計画を総合計画で修正することもあり得るかもしれない。

(稲澤委員) 個別計画と総合計画を無理に統合させようとするれば齟齬が出てくると思うので、合わせるというような考え方を持つ必要は無いと思う。進んでいくうちに必ず市民の方も含めて個別の計画が気になってくるらしい。行政の側からも計画についてある程度言及されるし、情報提供を怠りなくやっていくところまでだと思う。一定線を引いてしまうと、数多くある個別計画に共通の方針を作っていくのは難しいのではないか。

(小浦委員) 策定期間も異なるし、全部を調整するのは難しい。もし、先に個別計画が走っていて、今回総合計画を作るということで何らかの新しい連携や新しい方向性を総合計画で出した場合、もう1回フィードバックされて、個別計画の検証の時などに反映されるというような形でないと難しいような気がする。

総合計画は市域全体であり、全て見ていくということなので、連携の問題や複数の個別計画に関わることなどの位置付けは総合計画の中ではないかと思う。それに対してそれぞれの個別計画が出来ることを修正し、部門の枠の中である程度計画的に繋ぐことも可能かと思う。

(今川会長) またお気づきの点などあれば、いつでも事務局の方に申し出てほしい。

よろしく申し上げます。

【閉会】